英語の音声
―― リズムとイントネーション ――

遠　藤　裕　一

英語の音声は，語音の特徴（子音，母音など）と韻律的特徴（アクセント，イントネーション，リズム，（ポーズ））に分けて捉えることができる。本講では，特に英語学習の観点から，後者に限って基本的な型を示す。用いる例文はすべて下の参考文献からの引用である。アクセントの表記法に関しては，見やすさの便宜から筆者が元の資料に若干手を加えたものがある。

イントネーションは意味の違いに関与するから英語の発音を学ぶ上で大切である。（1）の *Pardon me ?* と *Pardon me.* のイントネーションの違いに注目されたい。

（1）　A : You’ re stepping on my foot.
　　B : Pardon me ?　（↗）
　　A : YOU ARE STEPPING ON MY FOOT.
　　B : Oh, Pardon me.　（↘）

Pardon me ?（↗）と上昇調で発音すると「（聞き取れなかったので）もう一度おっしゃっていただけませんか」の意味になり，*Pardon me.*（↘）と下降調で発音すると「申し訳ございません」と謝罪の意味で用いられる。

英語はストレス（強勢）付与（あるいは，Wells（2006）が言う文アク

セント）を受けて英語特有のリズムを刻む。通常，語彙項目（名詞，形容詞，動詞，副詞の大部分）にストレスが付与され，機能語（前置詞，冠詞，接続詞，代名詞，助動詞，法助動詞など）は弱く発音される。

（2） The fíreman should have escáped from the búilding.

（2）では，*fireman* の第 1 音節と *escaped* の第 2 音節と *building* の第 1 音節がそれぞれストレスを付与されて，英語のリズムの山を形成する。リズム構成上のある山から次の山までの発音時間はそれぞれ心理的に等時とされる。弱音節は，発話全体の快いリズムを保証するために，弱く，軽く，速く発音されなければならない。

一般的に，個々の節が独立したイントネーション句になるが，必ずしもこの限りでない。（3c）では，名詞（句）*Milk* が，あるいは動詞句 *come from cows* がイントネーション句を形成している。それぞれのイントネーション句は必ず音調核を持つ。音調核が振られる場所は下線で示す。

（3） a. Mílk cómes from <u>cóws</u>. ‖ Wóol cómes from <u>shéep</u>. ‖
b. Mílk cómes from <u>cóws</u>, | and wóol cómes from <u>shéep</u>. ‖
c. <u>Mílk</u> | cómes from <u>cóws</u>. ‖

また，イントネーション句への分割は，例えば（4a）と（4b）を区別する。

（4） a. She dréssed and féd the <u>bá</u>by. ‖ （彼女は赤ちゃんに服を着せて，お乳も飲ませた。）
b. She <u>dréssed</u>, | and féd the <u>bá</u>by. ‖ （彼女は服を着て，赤ちゃ

んにお乳を飲ませた。）

音調核は，他の位置に置かれる何らかの理由がない限りは，イントネーション句の中の最後の語彙項目に置かれる。が，（7）の B は，文脈により，文構造から予測されるストレス曲線とは異なるストレスの付与を受ける。すなわち，（7）の B では，文構造上は *time* に音調核が置かれるのがノーマルとされるが，この場合 *time* は旧情報であり音調核は *horrible* の第 1 音節に置かれる。

（5） Whát is the náme of the cápital of Póland ? ‖
（6） I've just recéived a létter from her. ‖
（7） A : Did you have a good time ?
B : I hád a hórrible tíme.

イントネーション句は，(i) 前頭部（prehead），(ii) 頭部開始点（onset），(iii) 頭部（head），(iv) 音調核（nucleus），(v) 尾部（tail）から成る。イントネーション句を構成する上で（iv）が必須要素であることは先に述べた。（8）では，*planning* の第 1 音節が頭部開始点である。

（8） We're | plánning to flý to | Í | taly. ‖
前頭部 | 頭部 | 核 | 尾部

都築（1996, 1997）は，英語教育の見地から，次の 7 つの基準音調核を提案している。各音調核は音符式符号あるいは文字補助符号で示される。

(i) 低下降調（Mid to Low）　[ ]　ˏyes　ˏyes-ter-day
(ii) 高下降調（High to Low）　[ ]　`yes　`yes-ter-day
(iii) 低上昇調（Low to Mid）　[ ]　ˏyes　ˏyes-ter-day
(iv) 高上昇調（Mid to High）　[ ]　´yes　´yes-ter-day
(v) 下降上昇調（High to Low to Mid）[ ]　ˇyes　ˇyes-ter-day
(vi) 上昇下降調（Mid to High to Low）[ ]　ˆyes　ˆyes-ter-day
(vii) 中平坦調（Mid Level）　[ ]　›yes　›yes-ter-day

これらの音調核が表わす意味，用いられる場面についての詳細はこの際省略するが，概略，下降調は陳述文，疑問詞で始まる疑問文，命令文，感嘆文などで用いられ，上昇調は *yes* か *no* を求める疑問文，柔らかな要請の気持ちなどを示す文などに用いられる。下降上昇調は言外の意を含む平叙文，いたわり，要請，警告に用いられる。上昇下降調は選択疑問文で用いられ，例えば（9a）は（9b）から区別される。音調核を文字補助記号で示す。

(9)　a.　Do you want ´coffee or `tea ?　（コーヒーかお茶のどちらが）
　　b.　Do you want coffee or ´tea ?　（コーヒーかお茶のような飲み物）

部分否定（10a）と全否定（10b）の区別も音調核の違いによって引き起こされる。

a.　ˇAll cats don’t like water.　（下降上昇調が用いられることが多い）
b.　All cats don’ t like ` water.　（下降調）

イントネーションの機能としては,（i）態度的機能,（ii）文法的機能,（iii）焦点化機能,（iv）談話機能,（v）心理的機能,（vi）指標機能などがある。従来,（i）態度的機能と（ii）文法的機能のみが強調され主に取り上げられたが, 言語研究の進展によって, 他の機能にも目が向けられるようになった。

英語の韻律的特徴に関して日本人英語学習者の困難点をいくつか指摘すると，弱音節の発音がうまくいかず全体的にリズムがとれない傾向，文頭の代名詞を強く発音し過ぎる傾向，頭部開始点を正しく捉えた場合にせよ誤って捉えた場合にせよ最初のピッチの上がり目の直後の音節でピッチを下げてしまう傾向，特に上昇調の練習の必要性などが挙げられる。

参　考　文　献

Gimson, A.C. 1980. *An Introduction to the Pronunciation of English*. London : Edward Arnold.

稲村松雄（監）. 1975. 『英語のイントネーションの研究　—英米語の解説と実例—』. 東京 : 学書房.

伊関敏之. 2006. 『談話のイントネーション研究』. 日本英語音声学会.

窪薗晴夫. 1993. 「リズムからみた言語類型論」『言語』Vol. 22 No. 11. 東京 : 大修館書店.

佐藤寧・佐藤努. 1997. 『現代の英語音声学』. 東京 : 金星堂.

Schmerling S.F. 1976. *Aspects of English Sentence Stress*. Austin : University of Texas Press.

竹林滋. 1982. 『英語音声学入門』. 東京 : 大修館書店.

都築正喜. 1996. 'How to Teach English Rhythm, Intonation and Prominence' 日本英語音声学会中部支部第 1 回研究大会講演資料（於長野工業高等専門学校）.

都築正喜. 1997. 『イギリス英語のプロソディ研究』. 日進 : 愛知学院大学.

渡辺和幸. 1994. 『英語イントネーション論』. 東京 : 研究社.

Wells, J.C. 2006. *English Intonation : An Introduction*. Cambridge : Cambridge University Press.

ウェルズ, J.C. 2009. 『英語のイントネーション』. 東京 : 研究社.